

## 家族農業において女性経営主が生まれる要因に関する研究

ーオーストリアとスイスにおける女性農場経営主の事例からー

○十文字学園女子大学 大友 由紀子  
愛媛大学 中道 仁美

### 1 目的

欧州南部ドイツ語圏の条件不利地域にあるオーストリアとスイスでは、小規模な家族農業経営が行われており、男子優先の農場相続を伝統とする。今日でもスイスでは、女子が後継者になるのは例外的で、女性経営主は極めて少ない。しかしオーストリアでは、1995年のEU加盟以降、兼業化と離農が進む中、女子でも農業に興味を持つ子どもが後継者になるケースがあらわれ、農場経営主に占める女性の割合も35%に上る。本研究では、オーストリアとスイスの女性農場経営主の事例より、家父長的な伝統を持つ家族農業において女性が経営主になるための要因を探る。

### 2 方法

本研究では、女性農業者のライフコースとキャリア形成に関する構造化面接調査（各2時間程度）の結果を用いる。オーストリアでは、連邦機関の中山間条件不利地域研究所と農林業職業教育機構、中央農業継続教育機関を通じて、2012年8月から2014年3月にウィーン市ほか4州にて、農場経営主や農場主あるいは農業関連のマイスター取得者の17事例を収集した。スイスでは、連邦機関アグロスコープを通じて、2013年3月と8月に、グラウビュンデン州ほか2州にて、農場経営主や農業後継者の10事例を収集した。このうち農場経営主（オーストリア13事例、スイス8事例）について、農場経営主としての地位と役割を獲得するプロセスを分析した。

### 3 結果

オーストリアの女性農場経営主には、①親の農場を相続した後継者、②後継者の夫との共同経営者、③兼業の夫に代わる経営者、④老齢年金受給年齢に達した夫に代わる経営者のケースがある。兼業が56%を占め、農場経営主に農業の職業資格が義務付けられていないことから、全国レベルでは④の名義的な経営主が多い。しかし本研究の対象は、①5事例、②5事例、③3事例だった。①のケースでは、農業の職業教育を受けて生産・経営技術を習得していた。②や③のケースでは他の職業資格を持った上で、結婚後に再教育制度を使って家政・経営技術を取得し、農家民宿や農家レストランなど副業部門を担当していた。他方、スイスの女性農場経営主は、①親の農場を相続した後継者5事例と、②農地を取得して新規参入した3事例である。②のケースは、農業の生産・経営技術を習得している。①のケースには夫に経営を委ねる名義的な経営主があったが、農業経営主に農業の職業資格が義務付けられた2007年以降は、他の職業資格を持った上で、農業の生産・経営技術を習得するケースが現れている。

### 4 結論

家父長的な伝統を持つ家族農業において、女性が経営主としての地位と役割を獲得する背景には、社会保障制度や法制度とあわせて、職業資格制度とそれを支える職業教育の存在がある。

### 文献

Oedl-Wieser, T.&Wiesinger G.,2010,Landwirtschaftliche Betriebsleiterinnen in Österreich. FB Nr.62 der Bundesanstalt für Bergbauernfragen. Wien.

※本研究はJSPS 科研費 24402031 の助成を受けている。